

みんなで取り組もう ～道徳教育と道徳科～



〈はじめに〉

『令和の日本型学校教育』に関する答申では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」と述べられています。

そのためにも、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の充実と「考え、議論する道徳」の授業改善を両輪で進める必要があり、ICTの効果的な活用を含む指導法の工夫等、より一層の充実が求められています。

「特別の教科 道徳」（道徳科）の全面実施から、小学校で6年目、中学校で5年目を迎えた各学校において、道徳科の授業づくりや道徳教育の更なる推進・充実に向けた取組の方策等に役立てていただきたいと思います。

また、令和4年度における研究校の取組を紹介します。本パンフレットが道徳教育推進の一助になれば幸いです。

考えたくなる、議論したくなる道徳の授業のために 「教師の指導の明確な意図」を持とう！

「どうやったら深まるの？」授業づくりで必要なことは

道徳の教材の特徴

もともと教材には、道徳的メッセージが含まれており、児童生徒も勘の良い子はすでにそれを読み取っている。



ストーリーから読み取れるメッセージ

正直



- 正直に行動することは大切。
- 正直に言った結果、良い事が起きてよかった。
- 正直だといいいことがある。



でもこれは、授業を通じた気づきではなく、教材から感じることができ、すでに経験や躰の中で良い行いと理解してわかっていること。

課題 深まりのない授業

教材の読み取り
登場人物の心情理解
終始してしまうと



それ前もやったなあ「正直」は大切ってことね～。主人公の凄さはわかった。

解決のヒント



教材をきっかけに、「正直」の「よさや意義、困難さ、多様さ」等、子供がまだ「気付いていない部分」や「考えたことのない視点」で自分ごととして考える工夫が必要

そのために欠かせないことの1つ

内容項目の道徳的価値(人間としてよりよく生きるためになぜ必要なのか)の意義や大切さについて教師が様々な視点から深く理解していること！



内容項目の道徳的価値を教師がしっかり捉えていることが大前提

【正直, 誠実】

道徳的価値

理解



「道徳的価値の理解」の手助けになる解説

毎時間の授業づくりで「内容項目」の理解をするために役立つもの
熟読は必須！！

教師の指導の明確な意図

内容項目の理解

内容項目

子供の**実態把握**

児童生徒の実態

教材の**効果的な活用**

教材

「令和4年度道徳教育推進研修」講義資料

指導の明確な意図を構成するためには、

- ①内容項目の理解
- ②子供の実態把握
- ③教材の効果的な活用

が重要です。

その中でも教師が内容項目に含まれる道徳的価値をしっかり捉えることは、欠かせないことであり、**学習指導要領に基づき、明確な考えを持つことが重要です。**

特別支援学級（特別な支援が必要な子ども）における道徳の授業

大前提

インクルーシブ教育システムを構築するためには、最も本質的な視点として「それぞれの子どもが、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか」とした上で、個別のニーズのある子供に対し、自立と社会参加を見据え、その時々で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。

【特別支援学校学習指導要領解説総則編p3】

「交流」として通常の学級で道徳科を受け、課題となっている特別支援学級の子供の様子

こんな姿は見られませんか？
充実した時間になっているのでしょうか？



好きなことをして授業に参加できていない
授業に興味を示していない



支援者の指示は聞いているけれど
授業の流れについていけない



難しく全て理解できずに1時間が終わる



見直しが必要な状況



特別支援学級の課題

○特別支援学級の子供においては、「交流」として通常の学級での道徳科の授業に参加することが最適と考える。



通常学級の課題

○発達障害等のある子供たちに対して具体的な支援がなされていない。



2つの課題の共通点は個別のニーズに対応する視点が不足していることです。
※「温かく受け入れてくれるから」「時には人数が多い方がいい」という思いだけで交流学級で道徳を受けさせることは、指導に関して適切さを欠くことになります。

参考

「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」（通知）より抜粋

交流及び共同学習を実施するに当たっては、特別支援学級に在籍している児童生徒が、通常の学級で各教科等の授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしていることが重要である。

＜＜改善が必要な具体的な事例＞＞ ※5つの中から2つ抜粋

- 特別支援学級に在籍する児童生徒について、個々の児童生徒の状況を踏まえずに、特別支援学級では自立活動に加えて算数(数学)や国語といった教科のみを学び、それ以外は交流及び共同学習として通常の学級で学ぶといった、機械的かつ画一的な教育課程を編成している。
- 交流及び共同学習において、通常の学級の担任のみに指導が委ねられ、必要な体制が整えられていないことにより通常の学級及び特別支援学級の児童生徒双方にとって十分な学びが得られていない。

令和4年4月27日【通知】文部科学省初等中等教育局長

R4文科省
通知文より

- 子供の事態や状況に応じて**学びの場の変更も検討してみる**（特別支援学級での道徳科か、通常学級での道徳科か、あるいは、月に〇回は〇〇で道徳科のように柔軟に対応）。
※特に知的障害を伴う児童・生徒は適切な配慮がなされているか検討が必要です。
- 授業で個に応じた「ねらい」、個に応じた「支援」を考えてみる。
- 交流学級で道徳をする際には、特別支援学級担任と通常学級担任が連携してみる。
 - ・次週の道徳の授業の内容や扱う教材の情報を共有する。
 - ・教材の内容をあらかじめ理解してから授業に臨めるようにする。
 - ・ワークシートを個に応じて変更してみる（ルビ振り、リード文つきの吹き出し、選択肢、心情を示す顔マーク等）。
 - ・「ふりかえり」やそれぞれの学級での授業の様子を共有してみる。



NITS校内研修シリーズ(No.98, 99)

「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育」

～特別支援学級における指導の在り方 理論編・実践編～

オススメ動画



特別支援学級の道徳例：授業に子供を合わせるのではなく、子供に授業を合わせる

「教材選択」「ねらいの設定」「教材提示」「指導方法」等、**子供の特性に合わせた配慮**が随所に見られ、子供が生き生きと学習に参加し、自分の考えが皆に聞いてもらえる、認められる経験は、道徳性を育むと同時に「自己有用感」、「学びの実感」を生みだしていました。

R4 文科省研究指定校 西原町立西原小学校 公開授業研

教材名：「やさいむらの子どもたち」
 主題名：すききらいにとらわれないで

出典：『ゆたかな心2年』光文書院
 C 公正,公平,社会正義



【話のあらすじ】
 土まみれでよごれた友だちが「仲間に入れてよ」と言ってきた…色んな意見があったが、最後は仲間に入れて一緒に遊ぶことができた。

①スタンダードな対面の形（導入時：教材内容の理解の時）

イスに座る子
 床に座る子



- ・電子黒板で挿絵を見せながら内容の理解をしやすく
- ・近くで見たい、聞きたいを気持ちを引き出し、全体に「聴く」「話す」のメリハリ



安心した雰囲気、
 発表意欲を高める

②教材の工夫



- ・落花生→じゃがいも（誰もが知るものへ）変更
- ・現物のやさいを用意「土まみれ」の状況も実際見せることで、**自我関与**もしやすく心情理解が容易になる

T1: 城間さとみ先生 T2: 當山清観先生

対象児童

- ・知的学級(2年生4名、3年生1名、6年生2名)
- ・病弱学級児童(5年生1名)



③話し合いの工夫（展開）



④役割演技（終末）：体験的な学習を取り入れた



- ・通常多く見られる、展開の前半で役割演技をするのではなく、考えたこと、わかったことの良さを実感する効果で終末に取り入れた

- 【個々の実態】
- ・友達の立場になって考えたり、気持ちを想像したりするのが苦手

令和4年度(2年次)

自他を尊重し、自己の生き方について深く考える生徒の育成

～生徒から出された意見や考えを深めるための発問、ファシリテーション、対話活動の工夫を通して～

今帰仁村立 今帰仁中学校

〒905-0401

今帰仁村字仲宗根47番地

TEL (0980)-51-5666

FAX (0980)-51-5668

<http://nakijin-chu.nakijin.ed.jp/>

取組の概要

- (1)共通実践項目、ローテーション道德、授業プランシートの活用などを通して、全職員で取り組む意識を高める。
- (2)研究部会の取り組みを通して、深い学びの基盤づくりを行う。

具体的な取組

(1)全職員で道德科の授業実践に取り組む意識を高めるために、下記の①～③に取り組んだ。

①共通実践項目

ア. 導入は5分以内 イ. 教材を読む前後で話のあらましを確認 ウ. 中心発問に対する考えはノートに書かせる エ. 振り返りの視点を与える オ. 振り返りの際に、大まかな書き方を提示する ※基本的には自由

②ローテーション道德

金曜日の4校時に全校一斉道德を設定し、ローテーション授業を行った。同学年職員で2～3名ずつのチームを作り、1人が授業者、残りは参観者として実施(各学年とも3学級編制で、教材が変わる3週間ごとに、チーム内で授業者を交代)。授業後は、各チームで振り返りを行い、ブラッシュアップして翌週へ繋げ、スキルアップを図った。

③授業プランシートの活用

共通のプランシートを活用して、金曜日や翌週月曜日の放課後に教材研究及び振り返りを行った。プランシートは、学習指導要領解説や補助資料から本内容項目で深めたい部分の検討→本教材のねらい設定→生徒からどのような発言や振り返りがあればよいかの検討→道德科の評価との整合性→中心発問や補助発問、その他の基本発問等の検討→本時の展開の検討の順に作成できるようになっている。

(2)深い学びの基盤づくりを行うために、下記①②の研究部会を月に1回程度開催した。

①集団づくり研究部会

学級担任を中心とする研究部会で、外部講師によるオンライン研修を受けた後、その内容を基に、集団づくりに関する具体的な方策を決定して実施した。具体的には、毎週水曜日の帰りの会を活用して、「Vトレ」と称したSST、コミュニケーションゲーム等を実施した。

②対話活動研究部会

国語科職員を中心とする研究部会で、道德科のみならず、全教育活動における対話活動が円滑に行われるように全教科共通の対話活動形態(グループ・ペアの形態、「話し合いのツ」)を作成して掲示した。

主な効果・成果

- 共通実践項目、ローテーション道德、授業プランシートの活用などを通して、全職員で道德科の授業実践に取り組む意識を高めることができた。上記の取組とは別に、全校で取り組む道德教育も実施し、道德科のみならず、道德教育に対しても意識して取り組めた。また、他の職員と議論して授業づくりを行う中で、より精度の高い授業に取り組むこともできた。
- 研究部会の活動を通して、深い学びの基盤づくりを行うことができた。さらに、職員が自主的に研究と実践に取り組めたことも大きな成果となった。